

保守・点検の事務作業を削減

▲スマホのイメージ画像



カンキョウ
点検日程や在宅状況を管理

下水処理施設やビルメンテナンス事業を行うカンキョウ（大阪市）は、5月25日に保守・点検業務の事務作業、現場対応を効率化させる「スマリブ」をリリースした。サービス名は「スマリブ」。点検のスケジュール管理をはじめ、消防点検や排水管清掃などの入居者とのアポイントメントが必要な業務の効率化に寄与する。

同サービスで専用のウェブ画面から事前に物件情報や点検項目、点検を行う会社を登録しておく

ことで、物件情報や点検スケジュールを一元管理することができる。入居者との日程調整には専用のQRコードを共用部への張り紙やメールに添付し、在宅可能の時間を入力してもらう。入力された在宅情報はウェブ上で確認が可能で、架電作業の削減につながる。点検の際は協力会社に専用のウェブアドレスを送ることで、現場にいる作業員のスマートフォン上で各部屋の在宅状況や物件情報を確認することができる。点検終了後の入居

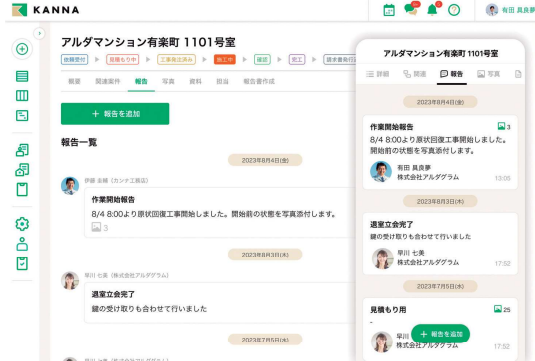
Chubb損害保険 オンラインで火災保険に加入 イタンジとシステム連携

賃貸住宅の入居者向け火災保険を提供するChubb（チャブ）損害保険（東京都品川区）は5月25日、不動産関連システムを開発するイタンジ（東京都港区）とのシステム連携を開始した。これまで書面で行っていた火災保険加入時の意向確認をオンライン化し、手続き業務の効率や入居者の利便性の向上を図る。

イタンジの電子入居申し込みサービス「申込受付くん」と連携する。同サービスを利用する管理会社は、家賃債務保証会社の審査が完了した入居者に対して、申込受付くんの管理画面から損害保険同意書のリンクを記載したメールを送れるようになる。入居者は受け取ったリンクから同意書を確認し、同意することで火災保険に加入することができる。

今回、オンラインで契約できるようになる火災保険は「総括契約」となる。総括契約とは、賃貸管理会社が保険契約となり、入居者が被保険者となる契約形態だ。管理物件の入居者は全員が保険に加入することになり、更新時も管理会社が手続きを行うことで更新漏れがなくなるという特長がある。

Chubb損害保険の不動産保険営業本部・堀俊和部長は、当社の販売代理店で申込受付くんを利用する不動産会社からシステム連携について強い要望があった。2022年から一部の不動産会社で試験運用を行っていたと話す。Chubb損害保険では、保険契約の手続きが全体の2割強だという。今後他社が展開する電子申し込み・契約サービスと連携を図り、契約の電子化を進める意向だ。



▲案件ごとに報告や写真の一覧画面を表示することができる

アルダマンション有楽町 1101号室

作業開始報告
8/4 8:00より原状回復工事開始しました。開始後の状態を写真面付します。

作業完了報告
8/4 8:00より原状回復工事完了しました。開始後の状態を写真面付します。

作業完了報告
8/4 8:00より原状回復工事完了しました。開始後の状態を写真面付します。



テレビ視聴のための共同設備の施工などを行う協栄メンテナンスシステム（東京都品川区）は2011年7月より、共同住宅共用部のテレビ視聴のための共同設備の定額保守サービスを提供している。23年6月末時点の導入企業へのフォロー体制にも注力する。賃貸管理を手がけるハウスマイメンテンス（東京都品川区）では、原状回復関連業務の効率化のため、1月に千葉南支店でのKANAを導入。アルダマンションと打ち合わせを重ねて、原状回復作業に關するフローの項目や、ユーザーと案件をひも付けする機能などのカスタマイズを進めている。現場では、工事業者との連絡や写真の共有のしやすさ、原状回復報告作成の手軽さが評価されている。

10月からは31拠点で導入予定だ。ハウスマイメンテンスは、原状回復工事を行うハウスマイワークスに状況が動く大量の案件が入る予定だ。ハウスマイワークスは、原状回復工事を行うハウスマイワークスに状況が動く大量の案件が入る予定だ。

（同）カスタマー事業部と担当社員のひも付けなどの課題をクリアして、業務の効率化を進めた」と話す。

契約戸数は、分譲マンションを中心に30万戸以上だ。アンテナや増幅器、分配器といったテレビ視聴のための共用設備の不具合相談対応や修理・交換を行う。受付窓口は24時間365日稼働しており、故障時は当日中に駆け付けて修理・交換対応を無償で実施する。台風や雷などの災害による故障も対象となる。

対応エリアは東京都、大阪府、愛知県、広島県を中心とした都市圏。月額料金は、関東地域は1戸あたり100円、その他の地域は1戸あたり165円（いずれも税込）だ。契約物件の戸数制限はない。

原状回復、アプリで進捗把握 関係者間で写真など共有

業務効率化アプリの開発を手がけるアルダグラム（東京都港区）は2020年6月より、プロジェクト管理アプリ「KANA（カナ）」を提案している。

KANAは、建設・不動産・製造業などの現場の情報や工事の進捗（しんちょく）状況をクラウドで管理し、関係者間で共有するアプリ。23年6月21日時点で2万社以上に導入されている。基本機能には、工事のスケジュールや進捗状況、物件情報を登録・共有する「現場管理機能」、案件単位で進捗確認ができる「カレンダー機能」、写真や図面を共有する「チャット・報告機能」、写真・資料機能、「報告書作成機能」などがある。シンプルで使いやすいアプリ設計と、案件ごとに入力項目などをノコードで簡単に変更

定額でテレビの共同設備保守 故障時は無償で機器交換

テレビ視聴のための共同設備の施工などを行う協栄メンテナンスシステム（東京都品川区）は2011年7月より、共同住宅共用部のテレビ視聴のための共同設備の定額保守サービスを提供している。23年6月末時点の導入企業へのフォロー体制にも注力する。賃貸管理を手がけるハウスマイメンテンス（東京都品川区）では、原状回復関連業務の効率化のため、1月に千葉南支店でのKANAを導入。アルダマンションと打ち合わせを重ねて、原状回復作業に關するフローの項目や、ユーザーと案件をひも付けする機能などのカスタマイズを進めている。現場では、工事業者との連絡や写真の共有のしやすさ、原状回復報告作成の手軽さが評価されている。

（同）カスタマー事業部と担当社員のひも付けなどの課題をクリアして、業務の効率化を進めた」と話す。

契約戸数は、分譲マンションを中心に30万戸以上だ。アンテナや増幅器、分配器といったテレビ視聴のための共用設備の不具合相談対応や修理・交換を行う。受付窓口は24時間365日稼働しており、故障時は当日中に駆け付けて修理・交換対応を無償で実施する。台風や雷などの災害による故障も対象となる。

対応エリアは東京都、大阪府、愛知県、広島県を中心とした都市圏。月額料金は、関東地域は1戸あたり100円、その他の地域は1戸あたり165円（いずれも税込）だ。契約物件の戸数制限はない。

（同）カスタマー事業部と担当社員のひも付けなどの課題をクリアして、業務の効率化を進めた」と話す。



▲体験会に参観している様子

三和テレム スマートホームを訴求 体験会に200人参加

IoT機器やスマート家電などの操作をアプリ上で行うことが可能となるサービス。通信環境の工事からIoT機器の設置、保守、運営まで同社で行う。取り扱うIoT機器はスマートロックや顔認証で解錠可能なインターホン

スマートホームを訴求
体験会に200人参加

IoT機器やスマート家電などの操作をアプリ上で行うことが可能となるサービス。通信環境の工事からIoT機器の設置、保守、運営まで同社で行う。取り扱うIoT機器はスマートロックや顔認証で解錠可能なインターホン

スマートホームを訴求
体験会に200人参加

IoT機器やスマート家電などの操作をアプリ上で行うことが可能となるサービス。通信環境の工事からIoT機器の設置、保守、運営まで同社で行う。取り扱うIoT機器はスマートロックや顔認証で解錠可能なインターホン